

CUBAPON ニュース

日本キューバ連帯委員会

<http://ifcc.1985.com/cubapon.htm> 郵便振込口座 00170-2-195919

NO39

2011年
6月

東京都新宿区山吹町333
辻ビル405 IFCC気付
TEL: 03-3268-4387
FAX: 03-3268-6079
E-mail: jvccpf@mail.plala.or.jp

灌漑用ポンプ2台、青年の島へ！ 支援カンパへのご協力にお礼申し上げます。

◆協定書（授与証明書）の調印式がキューバ青年の島ヘス・モンタネ・オルペサ大学で行われました。

青年の島で、四月二十六日、東日本地震犠牲者を追悼し黙禱が捧げられ、被災者に対しお見舞いの言葉を託されました。ここに、関係各位に、紙上もってお届けします。

すでにキューバへポンプ2台とホース50メートル2組を発送したとの連絡を受けて、協定書調印のために、4月23日成田を出発しました。キューバ稲作支援に最も積極的に取り組んできた君島クパポン代表幹事が赴くはずでしたが、急用のため、代表代行として松矢事務局長と農業専門技術者の菊田さん、通訳補助として村上さん、アドバイザーとして新潟大学「朱鷺・自然再生学研究センター」の堀井さんの4名で調印式に臨むことになりました。



事前送付のポンプを確認（11・4・26）

クバポンがキューバでの米作り支援を具体化するためにアクションを起こしたのは、2008年の友好訪問の時でした。その際に稲作専門家も同行し、キューバ中央稲作研究所や農務省と懇談しましたが、民間レベルでは青年の島での支援を期待するような感触を得ました。その後、青年の島を訪問し、日本人会との話し合いの中で米作りに対して前向きに取り組む意向があることを確認しました。

翌2009年の訪問時には、菊田さんが青年の島に単独で残り、日系人の稲作予定地を視察調査し、具体的な支援希望などを話し合ってきました。その中で、いくつかの問題点が明らかになりました。特に現地では灌漑用の配水をするためにポンプを強く希望していることも分かりました。

そこで昨年2010年春に、クバポン事務局はポンプを支援することを決定し、キューバ側にその旨伝えました。しかし、現地では購入する手だてがありませんでした。6月に単身菊田さんが青年の島に行き、それまでの経過報告をし、また現地での米作りについての助言や青年

の島大学でのプロジェクト計画の作成について話をしました。

そして、昨年11月の友好訪問で、日本から中国経由でポンプを送ることと、現地プロジェクトの内容を確認するために青年の島に渡りました。その時の団長であった**又市征治参議院議員**（クバポン代表委員）が在キューバ日本大使館に表敬訪問し、「草の根・人間の安全保障無償資金協力」についての貴重な助言をしていただきました。

「草の根無償」とは、開発途上国で活動するNGOなどが実施する草の根レベルの開発プロジェクトに対しして上限千万円を在外公館が資金援助するものです。そ



CUBAPON 10年度収支(10年5月1日~11年4月30日)

| | | |
|--------------|----------------|---------------|
| 支出 | | |
| 会報印刷代 | 49,000 | 36号、37号、38号 |
| その他印刷代 | 46,130 | チラシ、封筒、資料 |
| 送料 | 85,432 | 会報、封筒など |
| 派遣費 | 76,325 | 第6回オリギン会議 |
| 事務管理費 | 35,000 | HP、他 |
| 借入金返済 | 248,836 | 09年度1IFCCより |
| | | CTC 招聘、ラオス会議 |
| 計 | 540,723 | |
| 収入 | | |
| 会費 | 99,000 | 33人 |
| カンパ | 6,000 | 3人 |
| 稲作支援促進借入金 | 200,000 | 菊田様より |
| アジア会議参加カンパ | 40,000 | 8人 |
| 翻訳代 | 80,000 | 稲作プロジェクト |
| 10借入金 | 115,723 | IFCCより |
| 計 | 540,723 | |

協定書 (ACTA DE ENTREGA)

キューバ青年の島における農村日系人コミュニティ稲作事業に関し、日本のキューバ連帯委員会 (CUBAPON) は、下記の内容について支援することを表明する。

記

1. 農業用配水ポンプ (50メートルホース付き) 2台
2. 稲作技術に必要な研修・訓練の為のオフィス用品のうちパソコン2台
3. 配水ポンプの輸送に関わる経費 (上海⇒ハバナ空路輸送・ハバナ⇒青年の島海上輸送)
4. 配水ポンプの当面の実可動に必要な燃料費
5. 以上について現地での協議合意の上決定する

協議合意 2011年 4月26日
 日本 キューバ連帯委員会 (CUBAPON)
 代表委員 君島 一字 (印)
 現地責任者 松矢 文男 (署名)
 キューバ代表機関
 青年の島ヘス・モンタネ・オルペサ大学
 代表 Mayra Rondon Cardona (サイン)
 青年の島日本人会
 代表 宮沢 昇 (サイン)

調印した右: 宮澤・青年の島日本人会長と左: 松矢事務局長

のことを日本人会と青年の島大学に伝え、農業機械などのハード面はNGOを通して「草の根無償」で、クバポンは早急に必要とされているポンプと研修等に関わるソフト面で支援することになりました。(経過については、「訪問団報告集・経済封鎖下を生きるカリブの社会主義」第11、12、13集に詳しく報告されています。)

今回の訪問では、まず在キューバ日本大使館へお礼とNGOを通して申請されているプロジェクトについて大使館側の見解を伺いに行きました。そして、午後便で青年の島へ渡りました。



調印後、青年の島の方々 (11・4・26)

調印式は翌26日午前9時半より青年の島大学で行うことになっていました。全員が揃うまで時間があつたので、校内を見学してから会議室に向かいました。大学からは副学長のマイラ・ロンドン氏、調査担当のマリア・エレナ氏、国際交流担当のレイナ・マルガリータ氏、現地プロジェクト代表のハイメ氏、そして協力者の国立農業科学研究ロス・パロシオス稲試験場のギジェルモ氏、日本人会からは会長の宮沢昇氏、共同農場のアルベルト氏、マルシア氏、デルガーノ氏と私たち4名、通訳の上川よし子さんが一堂に会しました。

冒頭にキューバ側から、3月11日の東日本大震災の犠牲者に対して哀悼の意を表したいとの申し出があり、全員で黙祷を行いました。

新しいプロジェクト案のファイルが配られ、キューバ側のペースで会談が始まりました。クバポンとしては、協定書の調印内容と大使館情報の「草の根無償」について伝達してからプロジェクト案を説明するように求め、持参した書類を手渡しました。今回のポンプ等の引き渡しにおいて ACTA DE ENTREGA (授与証明書) 作製し、調印は午後に行うことになりました。その後は、「草の根無償」とプロジェクト案についての協議を行いました。

昼食を挟んで、午後2時半より、部屋をかえて調印式を行いました。午前中のメンバーの他に、青年の島農業牧畜総合会社、小規模農家連合、地方役人が加わりました。前のテーブルに日本から持参したパソコン等引き渡すものを置き、調印を行いました。クバポンを代表して松矢事務局長、青年の島大学プロジェクトを代表してマイラ副学長、日本人会を代表して宮沢会長によって、日本語版協定書とスペイン語版 ACTA DE ENTREGA にそれぞれ署名サインをしました。更に、経費としての現金は宮沢氏に手渡し、受領書にサインをもらいました。

記念撮影の後、現地稲作事業者を含めて会談を行いました。会談終了後、ポンプの確認をしました。まだ到着したばかりで、木枠に梱包されていました。1基については前日試運転をしたとのことでした。ポンプの燃費がいいことが分かり、経費がかからないことをとても喜んでいました。

何はともあれ、現地で待望されていた灌漑用のポンプを引き渡すことができ、大変うれしく思います。そして、ポンプが有効に活用され、今年の稲穂の豊かな実りと今後の青年の島米作りの進展を期待しています。皆様のご協

【支援内容と経費】

2011・5・19現在

| | | |
|----------------------------------|------------|---|
| 1. 農業用配給水ポンプ 2台 し済み | USD2,140・6 | 渡 |
| ・ Diesel water pump 2 sets | | |
| ・ Intake Pipe 10M | | |
| ・ Discharge Pipe 100M | | |
| 2. 稲作技術に必要な研修・調査・訓練の為の用品 し済み | | |
| ・ パソコン 2台 (新品 1台、中古 1台) | JP¥100,000 | 渡 |
| 付: マウス、リカバリデスク | | |
| ・ デジタルカメラ | JP¥30,000 | 渡 |
| し済み | | |
| 付: SDカード、デジカメケース | | |
| ・ USBフラッシュメモリ、DVD-R | JP¥3,000 | 渡 |
| し済み | | |
| ・ PHメーター | JP¥21,000 | 渡 |
| し済み | | |
| 3. 配水ポンプの輸送に関わる経費 上海⇒ハバナ空路輸送・ | USD2,367・2 | 渡 |

力に對しまして重ねて感謝申し上げます。

（「草の根無償」、「稲作支援プロジェクト」、現地稲作事業者との会談、稲作に取り組むシロ・レドンド地区と予定地フカロ地区の視察等の詳細につきましては、「キューバ稲作事情報告書」（支援カンパ頂いた方に別途送付予定）に掲載いたします。）

◆「キューバ稲作支援プロジェクト」へのカンパを継続してお願いいたします。

プロジェクトは3年計画になっています。継続して支援を進めていきたいと思っております。

2011年度・キューバ連帯

「稲作支援プロジェクト」への協賛カンパご協力の程よろしくお願いいたします。協賛いただいた方には、『キューバ稲作事情報告書』を後日郵送いたします。

◎郵便振替口座番号：00170-2-195919

◎加入者名：日本キューバ連帯委員会

◎一口3000円×（ ）口＝ 円

稲作支援プロジェクトCUBAPON扱いカンパ（2011年5月13日現在）

●24人 201,000円 ※使途明細は、次号でご報告します。

◆CUBAPON2011年度会費も、これまで同様、よろしくお願い致します。

◆稲作支援を見守る～第15回キューバ友好訪問団のご案内

11月に青年の島稲作事業の経過視察を組み込んだ第15回友好訪問団を催行する予定です。詳細は、同封チラシ記載の旅行社IFCへお問い合わせください。

☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆

◆共産党大会レポート～～M/K

前回1ヶ月の滞在の後、日本に戻ってまだ半年も経たないが、街の表情は微妙に変わっていた。

第6回キューバ共産党大会において自由化を進める方向性が出されたのは4月半ばのことだが、リセンシア（許可証）の規制緩和はそれより先に進んでいた。

昨年12月、街で知り合ったステキなセニョーラに「自宅でカサを開きたいのだが、家を見て意見を聞かせてほしい」と言われ、お宅に伺った。

「ちょっと前まではカサの許可を取るのはとても難しく、時間がかかったけれど、今は申請して1週間もすれば許可が出るの」とおばさんが言った。

家に行くと、空いている部屋はあるもののリビングや浴室に彼女の洋服や化粧品や所狭しと置かれていて、人とスペースを共有するのは、オシャレなおばさまにはムズ

青年の島SR. Jaimeからの連絡
2011・5・31

福島原発のニュースはこちらでも報道されつづけています、最小限の被害にとどまるよう、またより良い解決案がとられるよう心から祈っています。

MUNDUBAT 代表 Pepe Murillo (ペペ・ムリージョ) へ稲作プロジェクトに関わるCUBAPON出資負担分の報告(※)をしました。

また、先週にはMUNDUBATと日本大使館の森田氏の会談が行われ、我々のプロジェクトへの興味は大いにあるとPepe Murilloから報告を受けています。

私達は、プロジェクト用の機材入手の必要経費(輸送費を含む)を出し準備万端です。

贈呈されたノートパソコン(Sony Vaio)ですが、ハードウェアに問題があり現在PCエンジニアに調査してもらっています。

それ以外はすべて良好です。ディーゼルポンプはCiro Redondoと、La Demajaguaで活躍しており、効率的(燃費が良い)かつ良い環境で生産者の手により田植えを行うことができました。

カシイのではないかと率直に思った。

彼女がカサ計画を実行に移したかどうかはわからないが、私の住むサン・ラファエル通りはハバナ大学が近いせいもあり、カサ・パルティクラールのリセンシアを示す青いステッカーを貼った家がいきなり増えた。

通りを歩いていると「君はどこに住んでいるの？一晩幾ら払ってるの？洗濯はどうしてる？食事は？部屋をちょっと見て行かないか」と声をかけられることもしばしば。

うちの大家さんはカサを始めて12年というベテランで、経営ノウハウをすっかり心得ているが、にわかには始めたカサの中にはどう考えても向いてない家もあるようだ。

しばらくすれば、自然に淘汰されていくだろうと思う。キューバ人は、のんびりしたイメージとは裏腹に、実は勤勉でチャレンジ精神も旺盛のように思う。カサ同様、

カフェテリア、花屋、ディスク屋(手作りのコピーCD・DVD売り)、アクセサリーや古着を売る店、それに白タクが雨後の筍のように出現した。自由化とはいえ家内経営に限られているので、人を雇わないでできる商売といたらその辺りが限度のようだ。

ハバナの日本大使館で公使が口にした「自由化と言っても中国やベトナムのようににはならないでしょう。彼らはとても慎重です」との言葉は的を射たものだと実感する。

【党と革命の政治・経済・社会の指針】(表紙)

党大会で確認された「党と革命の政治・経済・社会の指針」が38ページからなる小冊子にまとめられ、各戸に配布された。

概略的にまとめられた「党と革命の政治・経済・社会の指針についての決定事項」と前書きに続き、以下の12の分野について合計313項目にわたって方向性と政策が明記され、最後に、実践に向けた行動指針が4項目、付記されている。

【目次】

1. 経済運営のモデル

一般的な指針

経営の範囲

協同組合

予算の仕組み

管轄地域

2. マクロ経済政策

一般的な指針

通貨政策

転換政策

財政政策

価格政策

3. 国外における経済政策

一般的な指針

海外取引

負債と信用取引

海外投資

協力体制

経済統合

4. 投資政策

指針

5. 科学と技術、刷新と環境政策

指針

6. 社会政策

一般的な指針

教育

健康

スポーツ

文化

社会保障



雇用と収入

無料と助成

7. 農業政策

指針

8. 産業・エネルギー政策

産業政策

一般的な指針

重点分野のための指針

エネルギー政策

9. 観光政策

指針

10. 交通政策

指針

11. 建設・住宅・水道政策

方向性

建設

住宅

水資源

12. 商業活動に関する政策

指針

実践に向けて

この中から、冒頭の「党と革命の政治・経済・社会の指針についての決定事項」を紹介する。

第6回キューバ共産党大会は、キューバ型経済体制を継続性、社会主義、経済発展、国民生活のレベルを後退させないとの目的を持ちながら私たちの市民の高い倫理性と政治性から成る必要な体制を活用してよりよく実践するために、党と革命の政治・経済・社会の指針の最終計画について議論し、精査してきた。

指針は、今後の経済体制も根本的な生産手段はすべての国民のもとに置かれるという社会主義的な方策に基づき、現行の社会主義的スローガンである「それぞれの能力と労働に基づき」を堅持し継続していくことを明確にしている。

党の経済政策は、社会主義のみが困難に打ち勝ち革命の成果を守ることができる唯一の方策であること、現状に即した経済体制において市場の傾向を考慮して計画化していくことに重点を置いて対応していくことになる。こうしたことを重視して自立的な国営企業と別な経営形態の開発を調和させなければならない。この体制においては、国内経済の主要な形態である社会主義的国営企業の他に外国からの投資や共同経営、小規模自営農、用益者、賃借、個人で収益をあげる労働、その他、効率性を高めるのに有効な経営形態を承認し、かつ促進していく。

ここで掲げられている経済政策は平等主義ではなく「社会主義はすべての市民の権利と機会の平等を意味する」というのがその概念であり、キューバの社会主義社会に



指針の表紙

においては何人たりとも取り残されることはあり得ないことを根底に置く。

党と革命の政治・経済・社会の指針の実行計画は、幅広い大衆的参加による民主主義的なプロセスの中で、大半の市民に保証されている議論を経て、そこで出された提言によって見直しを行いながら、打ち立てられた。

以下、第6回キューバ共産党大会の中で5つの委員会で補強され、承認された見解である。

- 党と革命の政治・経済・社会の指針を同意に基づく修正を加えながら承認する。
- 実行と発展のため、常任委員会決定に関係するそれぞれ

資料

キューバ共産党 中央委員会

世界の共産党員、政治勢力、社会運動家、ならびにキューバ革命の友人たちへ

プラヤ・ヒロン勝利およびキューバ革命の社会主義的性格宣言50周年と時期を合わせて4月16日から19日までハバナにて第6回キューバ共産党大会が開催された。

キューバ社会全体のさまざまな分野6万1千グループを構成する約80万党員から選出された1000名を超える代議員や来賓が参加した。

ラウル・カストロ・ルス総司令官により発表された中央報告は、キューバの社会主義を構築する歴史的過程における現在の重要な局面に関する自己批判的かつ時宜を得た分析である。この意味で、新たな社会主義社会の構築を進めることを保証する経済モデルの更新と経済社会構造の強化を目指した社会経済的变化を続ける必要性を支える本質的側面が明確にされる。すなわち、党大会中央報告は、国が直面する大きな問題を明らかにし、どのようにそれらを解決するかを目的としていた。

主要テーマに関する議論では党の創設者にして歴史的指導者、そしてキューバ革命最高司令官であるフィデル・カストロの創造的思考を継承することが承認された。

一方、現在進んでいる我々の現代化の取り組みは、約50年間に渡り経済、貿易、金融の過酷な封鎖を課せられているキューバの歴史的・文化的特殊性に本質的に基づくものであり、他国の類似ケースの機械的模倣ではない。

党および革命の経済・社会政策路線案が採択された。これに先立ち5ヶ月にわたり路線案に関する幅広い公開討論会が開かれ、800万人以上が参加し（複数回参加した者もいた）、約300万の発言と78万1644の意見が出された。参加者は自由に発言し、不満と矛盾を表明することが保証されていた。

国民から出されたすべての提案が検討された。これらの議論から導かれた計画の87.4%が考慮され、残りの12.6%の一部は引き続き検討することになり、その他は今のところ検討対象となっていない。

国民過半数の支持を得て、国家経済の重要な基盤としての生産と計画手段について社会主義公有制の優位性が承認された。革命の成果として達成された高い社会レベルと社

会の省庁との調整を損なうことがないよう政府に働きかけ、管理責任を求め、後退した行動すべてに対する検証と再調整を行い、新たな指針の編集を提案し、所轄機関における機能化と進捗経過の公表を促す。

○ 国家人民権力会議（国会）と政府、構想と実行に対応する組織に対し、採択された調整上、構造上、経済上の修正を行うため、状況に応じ、法的・制度的な基準を形成することを助言する。

○ 管理と推進、採択された指針の実行と要請についてはキューバ共産党が責任を負う。党中央委員会は年に最低2回は経済体制と経済計画の現状と進捗状況を検証する。

会計画における人道的精神の表明、そして全国民への教育、医療、スポーツ、文化の無償提供を維持するという社会主義国家の確固たる意思が確認された。

事実上全国民が参加した本大会では、結果的に元の路線案の68%が変更され、革命と共産党に対する圧倒的多数のキューバ人の信頼と団結、そして革命が誰も見捨てたりしないことが確認された。再びフィデルの思想の妥当性が実証された。「...党の強さは、大衆との緊密で永続的な結びつきにある...」

「この国の運命を決定する、党と共に先頭に立つ国民でなければならない」という原理に基づいた広範な国民参加による民主的かつ透明性のあるものだったというのは間違いない。

今こそその国の新たな経済社会モデルに含まれる政策を段階的に急がず実施するための期間が必要である。

党大会代議員は、中央委員会の候補者に入らず「党員そして思想の兵士」であり続けるという同志フィデル・カストロ・ルスの意思を尊重した。

同志ラウル・カストロ・ルス、同志ホセ・ラモン・マチャド・ベントゥーラがそれぞれキューバ共産党中央委員会の第一書記、第二書記に選出された。

115名の中央委員（半数は新メンバー）が選出され、そのうち女性は41.7%だった。また、政治局員は15人から成り、中央委員会書記局員も1名選出された。今回の選挙は、場当たり的な結果ではなく、我々国民の真の代表者、とりわけ、歴史的世代と共にキューバ社会主義の継続性を保証できる新世代の代表者を段階的に取り入れようとする政策の成果である。

党大会は2012年1月28日の共産党全国会議の招集を承認した。これは第6回党大会に続くものとして開かれる会議である。

主な目的は、キューバ共産党は指導と管理は行うが行政機能は持たないという原則に基づいて党を育成することだろう。したがって、党大会は規約、内部規則、組織構造、方法、仕事様式を現在の国の状況へ適したものにするために必要な決定を採択するべきだ。同様に、党全体の優先的・戦略的側面からみて、ならびに革命の未来のための決

定的側面として、幹部の育成と人材開発に特に注意して取り組むべきだ。

会議は外交政策と党の国際関係に関連する主要な定義を議論し、さらに採択するべきである。この意味において、党大会は主権、独立、自己決定、問題解決への非武力行使、内政不干渉の普遍的原理を守るキューバの一貫した立場を改めて強調した。

相互理解と尊重、無条件を前提に、米国政府とあらゆる共通の関心事を協議する意思が批准された。

人民権力組織、選挙制度、そして政治行政区分の改良が決議された。

世界の友人たちへ：

第6回キューバ共産党大会は、党員と愛国者にとって国家

セニョリータのつぶやき

この冊子(※冊子とは『党と革命の政治・経済・社会の指針』)を庭でしみじみと読んでいた知人のおじさんに「どうなんですかね？これからキューバは何か変わるんでしょうかね？」と聞いたら、「変えるとはいうけど、いつ何をやるか、はつきり書いてない」とか言ってました。

それと、私がよくお釣りをごまかされて怒ってることに言及して「君が困ってるような問題について何も書いてない。まずは泥棒を何とかしないとね」とも。

言わんとすることは、制度をどうすることより、とりあえず手をつけるべき現状があるのでは？ということらしい。また、党員だという近所のおじさんにもこの指針の感想を伺うと、「キューバは社会主義を決して捨てない。ベトナムや中国みたいなことには絶対にならない。これにそう書いてある」と、これまた極端な感想でした。

本文をナナメ読みしたところでは、まだ2重通貨の統合には言及していないようで、「通貨政策」の項目には、国内通貨の価値を高め安定させて外貨との格差を縮小させる、というところにとどまっているようです。

気になる項目として「無料サービスの縮減」の項では、「無料と助成」の項目に「不必要な無料サービスを廃止して必要なものを供給する」とか書いてある下に「労働者食堂は継続する」ということもざっと1行書いてありまして、思いやりが感じられます。

労働者食堂って一のは、実態がよくわからないのですが、知人から「職場の食堂

で1ペソでランチが食べられる」という話を聞いたことがあります。「ただ、品質が最悪だから、そこでは食べない」と素っ気なく言ってましたが。

ペソ対応のカフェテリアで普通に食べると、ピザとかホットドックが5ペソ、コーラかサイダー(瓶入り)5ペソ、合計10ペソ(40円ほど)くらいになります。私も最近、この手のランチでしめています。

一般人の生活を見ていると、ペソとCUCがあるうちはなかなか抜本的な改善にはならないのでは？と思いますね。

場所にもよるけどカデカ(両替所)に並んでいる人の半分はキューバ人っぽいです。

見た目、いかにも生活苦しうだなーというような人も、ペソを1とか2とか少額のCUCに交換しています(25ペソ=1CUC)。石けんがリブレタ(配給)から外れたり、食用油が配給ではコップ半分程度で、足りない分はCUCで買うしかないとか、そういう事情で、贅沢するつもりはなくても、どうしてもCUCが必要になっているようです。

ちなみに私が現地で愛用しているキューバ製シャンプー、リンスはそれぞれ3・75CUCで、シャンプーセットをペソにしたら190ペソ。労働者の平均月収の半分がフツ飛びます。キューバ人と結婚などしたら「金のかかる嫁」ってことで3日ですでに汗をかきますね(汗)。

それにしても妙だと思うのは、そのシャンプー・リンスを作っている工場の労働

者と独立と社会主義は密接につながっているため、キューバ革命のプロセスの愛国心は今もそしてこれからも守るべき存在であるを確認した。

新たに選出されたラウル・カストロ第一書記は閉会演説で、キューバ共産党員の第三世界の兄弟国の人々との連帯と、より良い世界のために絶え間なく戦っている世界の共産党とその他の進歩勢力への支援を強調した。

この偉大な期間中に受け取った励ましと連帯のメッセージについて、共産党と政治勢力、社会運動家、友人にこの場を借りて感謝する。

キューバ共産党中央委員会国際部

2011年4月20日 ハバナ市

者も400ペソ程度で働いているはずで、この価格が生産コストに見合っているとまでは到底思えないわけです。もっと極端なことは身近にもあり、ハバナ大学外国人スペイン語コースは月300CUCで先生の月給は(他の労働者よりも良いけれど)800ペソです。1クラス5人として考えれば、3000円弱のコストで15万円の収益を上げているわけです。その「見合わない部分」でキューバが誇る無料の医療・教育体制を支えているということでしょうけれど、「それにしても、もうちょっと納得できる数字にならないもんかなー」と思ってしまう。

ペソを貯めてカデカに並んで、手にしたCUCで石鹸やトイレトペーパーを買うというのは、年金250ペソの老人などからしたらやはり大変だと思います。基本はキューバ・ラブの私だけけれど「何とかしてやって」と言いたくなります。

客観的に考えると、すべてのペソ商品の価格と給料を25倍にしてCUCに並べると、労働者の月給は3万ほど。大学の先生の月給は6万円程度になって、シャンプーの価格や授業料から考えて、それなりに納得できる水準になるだろうと思うのですが。

これができるくらいの経済力がキューバにあれば、というか、キューバがそれだけの経済力を早くつけてくれることを祈りたいです。

(2011・5・31)

